

自民小委 (塩谷立) 提言、

高野連が検討

今年もその爽やかなプレーで、私たちに勇気と感動を与えてくれる全国の高校球児の代表が集結する甲子園の季節がやってきました。

甲子園大会が、多くの皆さまから支持される要因の一つは、地元あるいは故郷を代表決を固めるべく、去る五月三十一日、文部科学部会・文教制度調査会合同会議の下に「高校野球特待生制度小委員会」を立ち上げ、私が委員長に就任させて頂きました。

本小委員会では、日本高校野球連盟が検討を行っている特待生制度に関する基準作りを参考とするべく、関係団体



塩谷 立氏

身につけたい「粘り」

野球部への支援に感謝

藤澤部長

雨により開会式を行えずに始まった第八回全国高等学校野球選手権静岡大会でしたが、静岡野球部は四回戦で敗れてしまいました。

春の選抜野球大会で常葉菊川が優勝し、夏に向けての練習は「今度は静岡が全国優勝する」という気持ちで取り組んでいました。初戦の二回戦は静岡西を二対〇の五回コールド、三回戦は吉原を五対〇で破りました。四回戦の常葉菊

川は九回表一死まで一対〇でリードしていましたが、本塁打で同点にされ、延長一〇回に一点を取られ二対二で敗れました。その常葉菊川は県大会を制覇し甲子園でもベスト四に進出し、土壇場で逆転する姿は印象的でした。

大きな期待を背にプレッシャーの中で堂々と戦った三年生の姿勢を引き継ぎ、テレビで甲子園の様子が映されている間に静岡野球部は新チームとして始動しました。

新チームは二年生二人、一年生二人の計四人です。来春の選抜大会に向けた予選の秋季大会が既に始まっています。初戦の二回戦は焼津水産を三対一、三回戦の静岡学園は六対五の一〇回サヨナラ勝ち、四回戦の常葉菊は三対二の九回サヨナラ勝ちするなどして県中部地区を制し県大会出場を決めました。このような最後に逆転勝ちをする

姿は、三年生に対する恩返しのように感じます。この後にも気が抜かず粘り強く試合に挑みたいと思っています。

九月二日から県大会、静岡県を会場として一〇月二日から行われる東海大会を勝ち抜き、選抜大会への出場を目指しましたが、惜しくも県大会準々決勝で常葉菊に一点差で涙をのみました。

最後に、練習や遠征等において多くの同窓会の方々にご支援をいただきましたことを紙面を借りて御礼申し上げます。本当にありがとうございます。

(野球部長 藤澤徳芳)

「校友会雑誌」を探しています

明治34〜37年分

「校友会雑誌」は明治三十二年三月二六日に第一号が発行され、その後、「校友会雑誌」「印高」と名前を変え、第四三三号(昭和十八年)まで発行された。

また若いので後、一〇年ぐらいは活躍してほしい」と期待を込めた。

続いて女優の牧三子さんが三木さんの最近のエッセー「私は現金派！」を朗読。相当重い宅配便をコンビニで送る際、「中身は何ですか」と問われて、三木さんが「札束ですよ。置く場所がないので、こうやって送らざるを得ないんです」と答え、相手が「はあ、札束ですか」と驚かず、高笑い。出席者はユーモアにあふれ、風刺の利いた文章の朗読を楽しんだ。

三木さんは謝辞で「受賞は人生のシナリオで、想定外のこと」と述べたあと、「高校入学以来、五五年間、小説や詩を書いているが、うまくいかないと思いがちです。一度書いたことを二度と書くわけにいかないから、創作は身を削るつらい作業だが、七〇歳を過ぎ何かつた角度で書いてみたい。といつも一〇年は無理、一、二年でも続けて自分だけの世界を作りたい」と話した。

(76期 洞口和夫)

されました。静中時代を知る貴重な資料として事務局に所蔵されていますが、五号(明治三十四年)、七号(明治三十六年)、八号(明治三十七年)が抜けており、お持ちの方を探しています。お手持りの方は事務局(〇五四―二四六一―二二五六)までご連絡ください。

持ちで喜んで参加させていた、久しぶりに訪れた母校は、校舎が新しくなっていました。が、図書館のある同窓会館は二五年前のまま。向こうからトレーニング中の野球部の男子が走って来たかと思っただけ、立ち止まって「こんにちわ！」と元気良く挨拶してくれました。それからPTA図書館ボランティアの会の方から簡単な引き継ぎをした後、在校生の自習に立会い。熱心に勉強している姿はさすが高校生と誇りに思いました。私はその間、持参したノートPCを出して仕事の資料づくりをしたり、美術書を見たり。二時間はあっという間に過ぎ、帰り際に在校生から「ありがとございました！」と、また気持ちの良い挨拶をもらい、すがすがしい気分です。

四ヶ月に一〜二回のボランティア活動の他に、四ヶ月ごとに集まるミーティングでは、64期の青野信太郎さんから118期の川崎洋一君まで、年令や仕事に関わらず多くの先輩や後輩と知り合うことができました。皆様も是非一度ご参加されることをお勧めいたします。

(96期 榎戸 基)

「特待生制度」健全な姿に

公平・公正、透明性を高める

する高校を応援しようとする愛郷心による部分が多いように思います。

過去優勝、準優勝を誇る伝統校である我が静岡高校のOBとしても、今回のプロ野球裏金問題から発展し、各方面に動揺を与えた高校野球の特待生問題については非常に憂慮すべき課題であります。

自由民主党としても、この問題が社会的にも大きな影響を及ぼしていることに鑑み、幅広く意見を聴取し早急な解



「自分の世界を 作り上げたい」

三木卓氏恩賜賞祝う会

詩人で作家の三木卓さん(本名富田三樹、70期)の日本芸術院賞・恩賜賞受賞を祝う会が七月七日、横浜市内のホテルで開かれた。三木さんは東京午前二時で日氏賞、「鶴」ことが評価された。

祝賀会には出版関係者ら約四〇人に混じって静岡の先輩、三木卓氏の恩賜賞受賞を祝う会横濱市内のホテル

「自分の世界を 作り上げたい」

三木卓氏恩賜賞祝う会

から最初のあいさつを指名された元NHKアナウンサー山川静夫さん(67期)は「恩賜賞は栄えある最高の賞。同窓生の受賞、活躍はうれし限り。本当におめでとう」とたたえた。乾杯の音頭は、三木さんの早大在学中の恩師だった演劇研究家の河竹登志夫さんがとった。

柳沢伯夫・前厚生労働大臣は高校入学当時の三木さんについて、「人ととなり、いずれもとても目立つ存在だった」と強調。「児童文学もとても面白く、子育てに役に立った。

図書館ボランティアに参加して 母校のため、充実の2時間

私が図書館ボランティアに誘われてのことです。休日に図書館で自習を希望する在校生のために、我々同窓生が立

会い、閉館時の戸締りを行うとお聞きしましたので、何か母校のためになればという気

勝利創造

会員募集中! ご入会の方には、会報をお送りします。

年会費1口5千円です。郵便振替: 00870-6-49256 「静岡野球部後援会」 後援会は、物心両面で野球部をサポートします。

会長: 川村修 後援会ホームページ <http://www.yakyubu-koenkai.jp>

事務局/〒422-8615 静岡市駿河区吉田2-5-10 (株)シャンソン化粧品内 TEL054-261-8181 FAX054-261-8877